

魚類防疫に関する技術指導と研究

(魚病対策指導事業)

清川智之

1. 研究目的

種苗生産・中間育成・養殖時に発生する魚病を予防し、被害を最小限に抑えるため、水産生物の疾病診断、防疫指導を通して、飼育担当者の防疫技術の向上を図り、魚類養殖および増養殖を推進する。

2. 研究方法

飼育担当者からの持ち込み、および巡回指導時に入手した標本を検査に使用した。

3. 研究結果

本年度の疾病検査結果は下表の通りであった。

	月 日	魚 種	場 所	疾病名：症状、指導内容等
平成 15年	4月28日	ムラサキウニ	大 田 市	不明(棘抜け)：抜いた棘を培地に塗布して細菌検査を行ったが、細菌は分離されなかった。
	5月7日	ヒラメ (0歳・1g)	江 津 市	ビブリオ病：運動性のある細菌が TCBS 培地に純培養状に分離された。OTC の経口投与により治癒した。
	5月14日 5月19日	ヒラメ (0歳)	仁 摩 町	ビブリオ病：腹水の貯留、水槽壁面に体をこすり付ける等の症状がみられた。細菌検査の結果からビブリオ病と診断した。
	5月16日 6月9日	コノシロ	東出雲町 (中 海)	エドワジエラ症：中海で漁獲されたコノシロの一部に頭部の発赤、腹水の貯留が認められる個体が見られた。分離菌の性状検査(広島大学に依頼)から <i>E.tarda</i> と確認された。
	5月20日	コノシロ スズキ	平 田 市 美 野 町 (宍道湖)	異常なし(検査)：中海の漁獲物で <i>E.tarda</i> が分離されたことから、宍道湖の漁獲物でも同様の検査を実施したが、細菌は分離されなかった。
	5月27日	ヒラメ	美保関町 笠 浦	不明：大小ともに斃死がみられることから、ビブリオ病が疑われた(細菌検査は実施せず)。
	5月28日	コノシロ	美保関町 美 保 関 (美保湾)	異常なし(検査)：中海の漁獲物で <i>E.tarda</i> が分離されたことから、定置網の漁獲物でも同様の検査を実施したが、細菌は分離されなかった。
	6月3日	ヒラメ	大 田 市 和 江	ビブリオ病：頭部裏側脳等の発赤、腹水の貯留が認められ、細菌検査の結果からビブリオ病と診断した。
	6月5日 6月10日	ヒラメ	鹿 島 町 恵 曇	ビブリオ病：体表が白っぽくなっていた。細菌検査の結果からビブリオ病と診断した。OTC の投薬で最終的には治癒した。
	7月2日	ヒラメ	鹿 島 町 恵 曇	滑走細菌症：体表に潰瘍があり、検鏡するとドーム状の滑走細菌特有のコロニーが形成されていた。取り上げか薬浴で対応するよう指示した。
	1月23日	メガイアワビ	鹿 島 町 恵 曇	不明：水面付近に折り重なって調集する点が、以前鹿島分場等でみられた状況と同様であった。
	2月17日	ヒラメ	海 士 町	不明：腹水が貯留し、鰭の先端が赤くなっている個体が見られたが、細菌は分離されなかった。